

令和2年度「特色ある学校づくり事業」実践事例



地域・学校の環境

本校区は、400年以上の歴史を持つ伝統ある窯業の里であり、三川内山・江永・木原の三皿山を中心として、多くの陶工士が、「三川内焼」の生産にあたっている。陶工士たちは、平戸藩御用窯として育まれてきた窯業文化を受け継ぎ、伝統工芸品である「唐子絵・花鳥山水・透かし彫」等の「三川内焼」の作陶と開発に励んでいる。

豊かな自然にも恵まれ、歴史と伝統を受け継ぐ、素晴らしい教育環境に学校がある。

「あったか三川内」を合言葉に、家族的な温かい雰囲気の中で、素直で純朴な児童が、仲よく健やかに学校生活を送っている。地域住民の学校教育に対する期待と関心は非常に高く、学校の教育活動に対し、大変積極的に、熱心な協力や支援をいただいている。

地域の関係機関・団体と協力・連携を図りながら、学校・家庭・地域が一体となって、様々な取組や諸活動を展開し、「地域ぐるみでの子育て」「ふるさと三川内を愛する絆づくり」の推進に取り組んでいる。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策等もあり、当初の予定通りにいかなかったことも多々あったが、地域住民・家庭の理解と協力もあり、内容を削減したり、参加人数を減らしたりして、可能な限りの取組を行った。

テーマ 「郷土を知り、郷土を愛する心豊かな児童を育てる」

目的

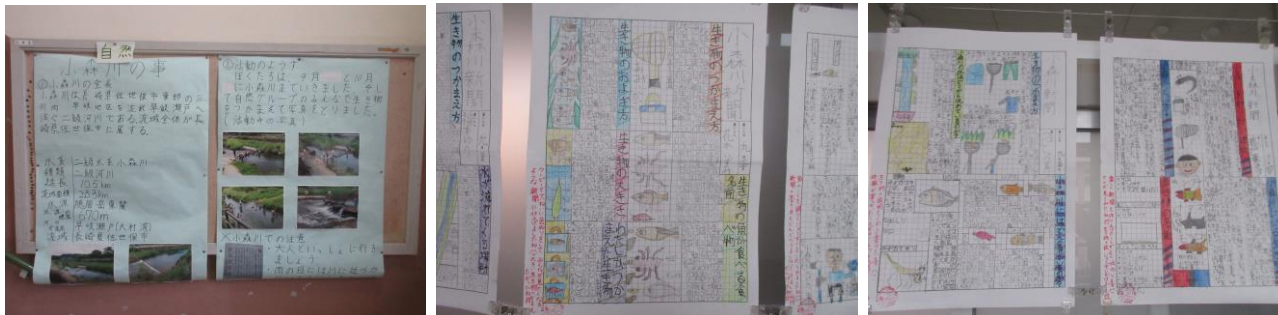
- 郷土の伝統産業である窯業文化を学ぶ学習
- 郷土の豊かな自然環境を知り、自然の浄化作用を学ぶ環境学習
- 地域の人々とのかかわりを通した福祉学習
- 豊かな人間性をはぐくむ基礎となる学力の充実
- 学校を拠点とした地域教育力活用による「開かれた学校」づくり



実践内容

1 「交流」体験活動…地域の方々とふれ合う活動に、積極的に取り組んだ。

- ① 自然体験学習…2年生は支流の、3年生は小森川の水生生物を調べ、追究する課題を設定した。2年生は、地域の川にたくさんの魚やエビ等がいたことに驚き、学校に持ち帰って飼育した。3年生は調べた結果を新聞にまとめることができた。どちらの学年とも、自分たちが住んでいる三川内の自然の豊かさを再発見し、郷土に愛着をもつことにつながった。



3年生がまとめた新聞です。どれも力作ぞろい。

- ② 三川内っ子ふれあいタイム……………11月26日実施。今年度は、規模を縮小し、午前中のみ、学年活動に内容を絞って実施した。各学年の内容は以下のとおりである。

<1・2年生>：昔遊び

はまぜん投げ、コマ回し、竹とんぼ、竹馬、紙飛行機、お手玉・あやとり・けん玉の各ブースをグループごとに体験した。特に「はまぜん投げ」は全員が初めてで、「面白かった」という感想が最も多かった。「竹とんぼ」も子どもたちに好評で、習熟を重ねるたびに上達していったことで、「やればできる」という自己有用感につながった。

<3年生>：しめ縄リース作り

親子でリース作りに取り組んだ。事前に様々な飾りを個人で準備しておき、当日は様々なオリジナルリースが完成した。達人の技に魅了され、更に地域への愛着を増した時間となった。

<4年生>：焼き物絵付け体験

地元の窯元様の指導を受け、マグカップ・茶碗・皿の絵付けを行った。まさに三川内ならではの活動であり、今後も継続していくべきものである。自分たちが絵付けをした焼き物が戻ってきたときの嬉しそうな表情からも、「三川内焼き」に対する愛着が更に増したことがうかがえた。

<5年生>：おにぎり・豚汁作り

田植え、稲刈りと地域の方の協力を得て経験し、そのお米を使っでの調理を行った。夏には味噌づくりの指導も受け、自分たちで作った味噌を用いた。今年度は、地域の方・PTA保体部の方の協力を得て、刈り取った稲を学校へ運び、脱穀も自分たちで行った。「自分たちで」できたことで、様々なことに「やってみよう」とする心が芽生えつつある。

<6年生>：「三川内の良さを伝えよう」（調べてきたことの発表）

事前に学習してきたことの発表を行った。「自然」「農業」「産業」の3つのグループに分かれ、調べ学習を続けてきた。焼きそば、ハンバーガー、だご汁は実際に作り、試食も行った。参観者の「おいしい」の声に自信を深め、自己肯定感が高まった様子が見えた。

1・2年生、3年生、4年生の活動では、健全育成会を中心とする地域の方々に指導をいただいた（13名）。また、5年生、6年生の活動では、特に保護者の方々の協力をいただいた。

今年度は、5・6年生が育てた花の苗、大根、米、味噌を販売するなど、新しい試みが見られた。従来行ってきた「遊びの達人塾」を、1・2年生の「昔遊び」に吸収合併した形で行ったが、どの学年も地域の方と触れ合うことができ、大変充実した時間となった。



こま回しを習っています。



こちらはしめ縄リース作り。



三川内焼きは外せません。



自分たちが育てました。



6年生は最後のふれあいタイム。



「安いですよ〜。」

- ③ 学校図書ボランティア「WAKU WAKU おはなし隊」…毎週水曜日8：25～8：45各学年の児童へ読み語りををしていただいている。児童は、水曜日を楽しみにしており、読書に親しむ児童が増えている。今年度は、目標としている貸し出し冊数20,000冊を12月のうちに達成したことにも、大きく寄与している。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、十分な回数を行うことができなかったのが大変残念である。



様々な工夫を取り入れてくださっています。

2 「ふるさと三川内」体験探究活動

- ① 三川内の伝統工芸である三川内焼について学年を越えて探究。課題を見つけ、調べ、まとめる活動を通して、ふるさと三川内のよさを改めて実感する学びとなる。今年度は、前述の4年生絵付け体験を行い、これまでよりも充実した体験活動となった。

3 「栽培・収穫」体験活動…児童は豊かな自然の恵みを味わい，地域の「達人・名人」から，いのちの尊さや生産の大切さについて学んだ。

- ① 校区内水田での米作り体験活動…5年生が，地域の「米作り名人」の方々に熱心に御指導いただき，田植え・稲刈りまでの米作りを体験することができた。今年度は，脱穀までを経験させていただき，収穫の喜びと同時に，収穫までの苦労を実感することができた。
- ② 学校園でのサツマイモ栽培活動…1年生～3年生を中心に，地域の「芋づくり名人」の方々に御指導いただき，芋さしから芋掘りまで体験し，収穫の喜びを味わうことができた。



思ったよりも難しく…



安全第一です。



適所適所で名人の教えが。

4 「おもてなしの心」「かかわり合い」で心豊かに

- ① 手作りのおにぎりや豚汁…5年生による11月のふれあいタイムでの取組。児童が作った米と味噌を使って，心を込めて「おにぎりや豚汁」を作り，米作りから，脱穀までを指導していただいた地域講師を，感謝の気持ちで「おもてなし」した。本来ならばたくさんの地域の方をお招きし，感謝の気持ちを伝えたかったのだが，参加人数を制限したことにより，講師のみを招待した。
- ② 異学年とのかかわり…毎日の集団登校や，「花いっぱい運動」「三川内スポーツ」など，異学年と関わる活動を実施することで，相手の気持ちを察し，考えることができる豊かな心を育てている。今年度は，「花いっぱい運動」で使用する花苗を，5・6年生が種から育てた。より一層責任感が増したのか，下学年に堂々と指導する姿が見られた。また，「三川内スポーツ」では，徐々に教師の手を離れ，高学年の子どもたちが主体的に運営することができるようになってきた。



植え替えの方法を説明中。



低学年に優しく指導。



みんなの前でも堂々と！